

「熊本の学び」授業実践の **7** つのチェックリスト

【授業者の省察に生かす】

熊本のすべての子供たちが「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けるため、授業実践のチェックリストを作成しました。各学校での授業実践の振り返り（省察）等に御活用ください。

番号	観点		チェックリスト		授業改善（例）
			子供の姿 （※熊本の学び推進プラン）	チェック ✓	
1	日常	学級づくり	（子供たちは）互いに失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりしている。		□支持的風土の醸成 （一人一人の良い点や可能性を認め、ほめ、励ます など）
2	単元	単元ゴールの姿	（子供たちは）単元終了時の姿を共有している。		□単元のデザイン （どんなことが分かり、できるようになったらいいのか、実生活や次の学びにどう生かすのかを具体的にイメージした指導 など）
3		全体	（子供たちは）「わくわく」など、知的好奇心や興味・関心を高めて学習に取り組んでいる。		□単元を通した学習課題の設定 （ゴールの姿を実現させるための学習課題や学習活動 など）
4	単元や一単位時間	導入	（子供たちは）「なぜ」「おそらく」など、疑問をもったり予想したりして学習に取り組んでいる。		□問いを引き出している工夫 （言葉かけ、教材提示、学習課題 など）
5		展開	（子供たちは）「やってみよう」「なるほど」「きっと」など、挑戦したり納得したりして学習に取り組んでいる。		□積極的なコーディネート （考える場面と対話し、協働して問題を解決する場面の組み立てや対話や協働場面での働きかけ など）
6		終末	（子供たちは）「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組んでいる。		□学習内容と学習状況をまとめ・振り返り（「めあて」や「学習評価」との整合性や「振り返るポイント」 など）
7		個に応じた指導	（子供たちは）自分の習熟度合った課題などに取り組んでいる。		□児童生徒の実態を踏まえた個に応じた指導 （補足的な学習や発展的な学習 など）

※	ICTの活用	（子供たちは）ICTの活用により、学ぶ意欲が高まったり、学習の理解を深めたりしている。		□効果的な場面で目的に応じたICTの活用 （学習活動での活用、提示資料として活用）
※	板書の工夫	（子供たちは）板書を基に学習の流れを振り返っている。		□学習過程が分かるように整理された板書の工夫 （構造的な板書など）